

- ◆ 「NPO法人 かさおか島づくり海社」(以下「かさおか島づくり海社」)は、過疎・少子高齢化が進む笠岡諸島(岡山県笠岡市)で暮らす人々を支えるため、行政と連携して介護事業、買い物支援などの活動を展開。
- ◆ 高齢化率6割を超す同諸島において、島民が何を望み、どのような環境で暮らしたいかを探り、意見を聞きながら課題を事業化して改善に向けて取り組み続けている。合言葉は、「島づくりは人づくり」「島づくりは自らの手で」。
- ◆ 倉敷出張所は、当所の有するネットワークの活用や財務本省(地方課)との協働により、様々な方面へ情報発信を行うとともに、交流の機会等を通じて把握したニーズに応じた国の施策等の情報を提供するなど、地域活性化の取組を支援していく。

1. 笠岡諸島における取組の概要等

【島が沈没する危機感から島民が立ち上がった】

○ 笠岡諸島(岡山県笠岡市)の有人7島では、昭和25年に約12,000人いた人口が平成27年には約2,000人に減少。過疎・少子高齢化が進展する中、このまま何もしなければ島が無人化してしまうとの危機感を持った各島有志が、平成9年に現「かさおか島づくり海社」理事長の鳴本氏を会長とする「島をゲンキにする会」を設立。



出典:岡山県離島振興計画

【島同士を結ぶ「島の大運動会」】

○ 同会では、7つの島同士のつながり、連携を高めるため、平成10年から「島の大運動会」を毎年各島持ち回りで平成27年までに17回開催。
○ 2回目の「島の大運動会」では、「島の討論会」が行われ、同市に対し、「島を元気にしようと頑張っているが、日々の生活があって専属ではできない。事務局になる人が必要なので、役所が島に来てほしい」と主張。この想いを重く受け止めた同市は、平成13年に市長特命の「島おこし海援隊」を結成。隊員として同市職員(3名)を派遣。



鳴本浩二 理事長



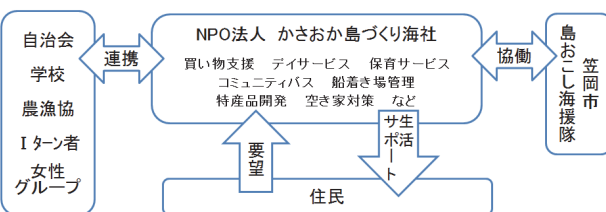
島の大運動会



「かさおか島づくり海社」

【島づくり海社の設立】

○ 「島おこし海援隊」が生活に根差した地域の課題解決に取り組み、島民との間に信頼関係が生まれていく中、島民から「自分たちのことは自分たちでしよう」という声が出始め、平成14年に島づくりを7島合同でやるための笠岡諸島を会社組織のようにみなした島民組織(任意組織)「電腦笠岡ふるさと島づくり海社」を設立。同組織は、平成18年にNPO法人格を取得し「かさおか島づくり海社」と改称。



○ 「かさおか島づくり海社」は「島おこし海援隊」との協働で、地域の公共的役割を担い、福祉、教育、特産品開発、都市住民との交流等幅広い事業を展開し、離島の生活に関する総合的なプロデュースをしていることが「地域づくりの理想的なモデル」として評価され、第6回地域再生大賞の大賞を受賞(平成28年)。

2. これまでの取組の成果等

○ 島の産業サポート事業

江戸時代から受け継がれてきた北木島の石加工技術を活用し、火山礫を粉状にしたもので島の魚を包み込み、鮮魚のみずみずしさと干物の旨みを併せ持つ特産品『魚々干(とっとぼし)』を開発。年間売上約400万円。



魚々干



海社デイサービス「すみれ」

○ 島の暮らしサポート事業

島で最後まで暮らしたいという島民の声に応えるべく、古民家等を活用した介護施設を4か所運営。平成28年2月時点で56人が利用。従業員からは「自分の親を看つつ給料を頂くことができて助かる。」との声が聞かれている。また、買い物へ出かけることが難しい高齢者世帯などの買物を代行し、自宅まで商品を送り届ける注文代行配達サービスを提供。70軒が登録。利用者からは「わざわざフェリーに乗って本土まで買い物に行かなくて済むので助かる」との声が聞かれている。



配達サービス

○ 島と町の交流サポート事業

島民と協力してアイランドツアーを実施。毎回25名程度が参加し、キャンセル待ちも発生。

○ 島での学びサポート事業

島を学びの場として、保健医療の体験学習を図る活動などの現地対応、プログラム作成をサポート。

3. 今後の課題と倉敷出張所の対応

《今後の課題》

○ 今までの活動を支えてきた世代が高齢化し人手不足となっているため、次世代の担い手の確保が必要。また、島への移住者を増やすためには、地域に密着した保育・介護サービス等の福祉・医療事業に加え、独自の収益事業を育てるために必要な資金の調達が課題。

《今後の倉敷出張所の対応》

○ 倉敷出張所は、当所の有するネットワークを活用した情報発信を行うとともに、「かさおか島づくり海社」のニーズに応じた国の施策等の情報を提供し、地域活性化の取組を支援していく。